



ほけんだより



令和3年11月17日
杉並区立堀之内小学校
校長 森 孝

とう かんせんせい い ちょうえん ちゅうい
ノロウイルス等による感染性胃腸炎にご注意ください 

がっ しゅうだんかんせん ふ はし じき
—11月から集団感染が増え始める時期です—

ノロウイルスとは



●特徴

幅広い年齢層において感染性胃腸炎の原因となるウイルスで、特に冬季に多発します。100個以下という少量で人に感染し、腸管内でウイルスが増えます。患者のふん便やおう吐物には1グラムあたり100万から10億個もの大量のウイルスがふくまれています。

●感染経路

経路 1 人のふん便中のノロウイルスが、下水を経て川から海へ運ばれ、二枚貝に蓄積され、それを十分に加熱しないで食べると感染します。



経路 2 ノロウイルスに感染した人が、十分に手洗いを行わずウイルスが手についたまま調理をすると、食品が汚染され、その食品を食べた人が感染します。

経路 3 ノロウイルスをふくむふん便やおう吐物を処理した後、手についたウイルスや、不適切な処理で残ったウイルスが、口から取りこまれ感染します。

●感染した時の症状

感染後、24～48時間で、下痢、吐気、おう吐、腹痛、発熱などの症状が出ます。

通常3日以内に回復しますが、ウイルスは感染してから1週間程度ふん便中に排泄され続けます。

●消毒方法

- ほかの微生物などくらべると熱に強く、85℃で1分以上の加熱が必要です。
- 塩素系漂白剤の次亜塩素酸ナトリウムは効果があります。



●対策のポイント



○こまめな手洗い

○二枚貝の十分な加熱調理

○吐物やふん便の適切処理



●排泄物・おう吐物の処理

ふん便やおう吐物の処理は、処理をする人自身への感染と、施設内への汚染拡大を防ぐため、適切な方法で、迅速、確実に行うことが必要です。

あらかじめ準備しておく物品

使い捨て手袋、マスク、ガウンやエプロン、拭き取るための布やペーパータオル、ビニール袋、次亜塩素酸ナトリウム、専用バケツ、その他必要な物品

- ① 汚染場所に関係者以外の人が近づかないようにします。
- ② 処理をする人は使い捨て手袋とマスク、エプロンを着用します。



カーペット等は色が変色する場合があります。

- ⑤ おう吐物が付着していた床とその周囲を、0.1%次亜塩素酸ナトリウムを染み込ませた布やペーパータオル等で覆うか、浸すように拭きます。



次亜塩素酸ナトリウムは鉄などの金属を腐食するので、拭き取って10分程度たったら水拭きします。

- ③ おう吐物は使い捨ての布やペーパータオル等で外側から内側に向けて、拭き取り面を折り込みながら静かに拭き取ります。



同一面でこすると汚染を拡げるので注意してください。

- ⑥ 使用した着衣は廃棄が望ましいですが、消毒する場合は下記の手順で行います。

- ① 付着したおう吐物を取り除く(手袋着用)。
- ② 熱湯につけるか、0.02%の次亜塩素酸ナトリウムに30～60分つける(P.4を参照)。
- ③ 他のものと別に洗濯機等で洗濯する。

- ④ 使用した使い捨ての布やペーパータオル等はすぐにビニール袋に入れ処分します。



ビニール袋に0.1%次亜塩素酸ナトリウムを染み込む程度に入れ消毒しましょう。

- ⑦ 手袋は、付着したおう吐物が飛び散らないよう、表面を包み込むように裏返してはずします。手袋は、使った布やペーパータオル等と同じように処分します。



※その他の留意点

- 吐物処理後は、調理や配膳などに従事しない。
- 可能ならば、吐物処理後にシャワーを浴びるのが望ましい。

処理後は手袋をはずして手洗いをします。



【ポイント】

- おう吐物を処理した後48時間は感染の有無に注意してください。
- おう吐物の処理時とその後は、大きく窓を開けるなどして換気し、換気設備がある場合には必ず運転させてください。

<参考文献>

「社会福祉施設等におけるノロウイルス対策標準マニュアル」社会福祉保健局